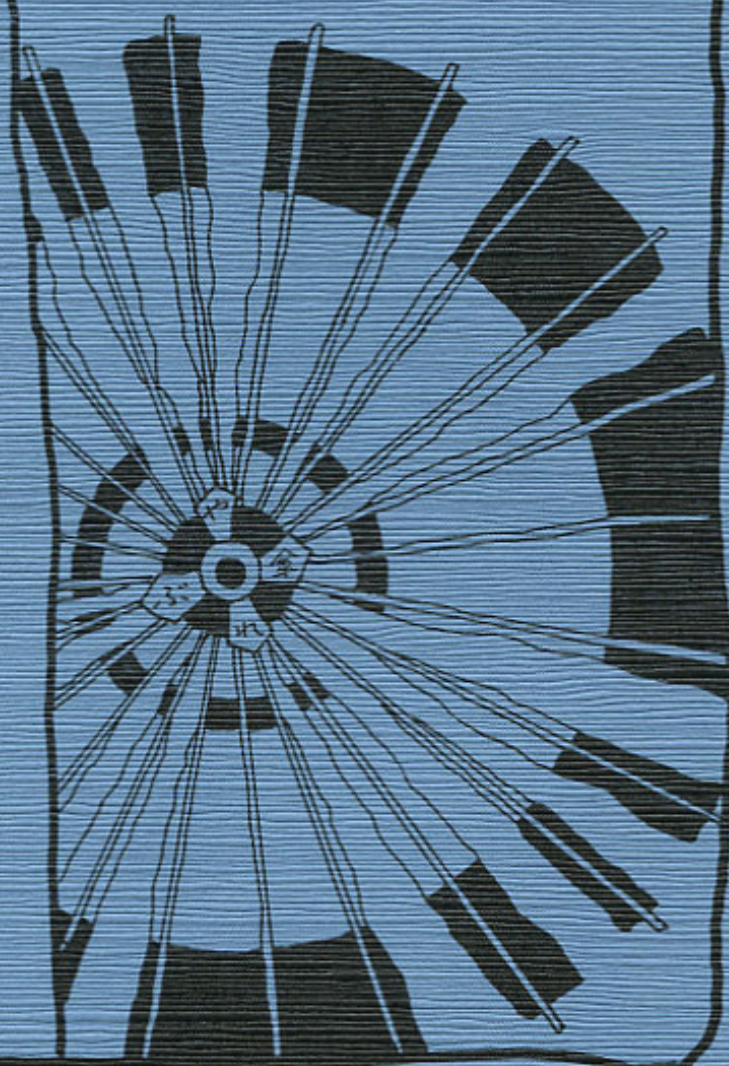


やぶれ傘



五十五号

二〇二〇年八月

| | |
|------------------|--------|
| 梅雨の夜の管を通りし尿かな | 根橋宏次 |
| ゆきゆきて柳絮の繁きところまで | 大島英昭 |
| 水かける風呂場の鏡枝蛙 | きくちきみえ |
| 梶棒を上げて駆けだす夏柳 | 丑久保勲 |
| 屋久島の杉の洞より袋角 | 廣瀬雅男 |
| 飴玉をふふみ小江戸の薄暑かな | 秋葉貞子 |
| 虫喰ひの苳ありけり藁蕙 | 天野美登里 |
| 潮の香や鰺の叩きに鰺の骨 | 安藤久美子 |
| 芥子菜や川原へ降りる土手の道 | 瀬島酒望 |
| 電線の暮れ残りたる蚊喰鳥 | 藤井美晴 |
| 店先のタイヤの臭ひ夏の月 | 渡邊孝彦 |
| 暮れそむる土手の上なる夏の月 | 白石正躬 |
| とぐる巻く神の使ひといふ白蛇 | 久世孝雄 |
| 飛ぶものの影を映して湖は夏 | 國保八江 |
| 梅雨明けの空ひろびろとひろびろと | 松村光典 |

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ れ や

| | |
|-----------------|-------|
| 猿ぼぼを吊るす朝市花曇 | 有賀昌子 |
| 花薊牧の柵より牛の舌 | 松本正生 |
| 春耕や八十路の婆の友となり | 秋山信行 |
| 草蔭に水輪拵げて残る鴨 | 浅嶋 肇 |
| 水ひかる田や産土の百千鳥 | 石原健二 |
| 夏来るチアリーダーの指の先 | 岩藤礼子 |
| 接種する獣医の背中花櫛 | 岡田香緒里 |
| 菖蒲田の敷きわら乾ぶ日差しかな | 奥田温子 |
| 夏つばめ植替へ終る花時計 | 忽那みさ子 |
| 白南風や漁師の顔に塩噴いて | 小池一司 |
| 薬師さまの水をいただく梅雨時間 | 齋藤朋子 |
| 校庭に生徒の数の早苗鉢 | 鈴木昌子 |
| 葉桜や失敗も手の大道芸 | 時田義勝 |
| 朝涼の卓のサラダはタラトール | 中村則夫 |
| 声高に繁りに帰る鴉かな | 橋本美代 |

逃 水

大崎 紀夫

夜ひかる田水に土佐の蛙鳴く
畝の間に首出してよりほろろ打つ
先生が窓へ蛙の目借時
曳き舟の水脈ながくゆく傘雨の忌
街灯のこれよりまばら椎にほふ

静かなる小昼の神田祭りかな
積まれたる浮標ぶぶの下より蜥蜴かな
蓐ぬなわ舟ひとつは木洩れ日の底に
畦川を田草流るる閑古鳥
かはほりにアパートの空路地の空
逃水の向うに離陸する機体
風すこし出て梅雨の夜の空たひら

鯨の骨

安藤久美子

生返事して味噌餡の柏餅
潮の香や鯨の叩きに鯨の骨
間遠なるバス待つ黙に銭葵
四十年来の硝子戸青嵐
ジャスミンを褒めて花屋の帰りけり
絵硝子を過ぎる人影青葡萄
ががんぼのふと紛れ入る茶席かな
おとしぶみ昨夜の雨粒零しけり
涼風の三面鏡に透明に
草いきれリフトは空で降りて来る

土手の道

瀬島洒望

芥子菜や川原へ降りる土手の道
野火止めの用水隠す杉菜かな
ライオンも虎も寝てたと遠足児
パンの絵の大看板や燕
吹き降りにさざ波の立つ植糸田かな
夕月は空に蛙の声は田に
足湯して戻る小道や竹煮草
鉄橋は山から山へ桐の花
湯の町にN社保養所河鹿鳴く
挨拶も乾杯もみな宿浴衣

蚊喰鳥

藤井美晴

フリージアのかをりは
ガラスの花瓶より
子をあやすこゑ通り
過ぐ鉄線花
芝の間にひよろり
文字摺草の花
蝦蟇一步動きし
のちをかしこまる
電線の暮れ残り
たる蚊喰鳥
雷近し旧街道の
杉並木
猫の餌に雀寄り
来る梅雨の明け
帰省子の先づ
駅頭に水を飲む
夏燕軍馬水飲み
場の跡を
墓石に日の照り
かへる仏桑花

タイヤ

渡邊孝彦

夏近き店先に干す箆笥かな
腐葉土を離れぬ鳩や竹の秋
公園の椅子に空きなし春うらら
岩の上に親子向き合ふ磯菜摘
石垣の石の不揃ひ破れ傘
バス停にバスとまる音樟若葉
店先のタイヤの臭ひ夏の月
山間の青葉若葉に囲まるる
夏掛けにカバーをかける留守居かな
草いきれ河原にチェーンソーの音

夏の月

白石正躬

鶯や山の墓石は木の下に
葱坊主うすき雲きる昼の月
藤の花雨降ればみな雨雫
川沿ひをグライダーゆく夏燕
鳶の笛晴れ晴れとある五月かな
富士山見えて青葉時雨に打たれけり
暮れそむる土手の上なる夏の月
けつまづく石につと覚め蛍の夜
ひと筋の苗のととのふ植田かな
草茂る川の匂ひを風つれて

白蛇

久世孝雄

薔薇一輪犬の首輪に挿してやり
北あかりてふじやがいの武骨なり
数多あり茅の輪くぐりし靴の跡
墓地いかかと又も電話や梅雨じめり
とぐる巻く神の使ひといふ白蛇
苦瓜の下がるカーテン町工場
遠雷や土蔵の屋根の鬼瓦
帰る巢の在り処聞きたし夜の蟻
餌の時間忘れず浮かぶ金魚かな
目撃者求めむ看板來竹桃

湖は夏

國保八江

菜の花のなかにこゑするかくれんぼ
噴水の天辺を見て空を見て
飛ぶものの影を映して湖は夏
雲ひくくになりたる小昼立葵
暮れ際の流れは速し竹落葉
夏薊日に六便の山の駅
登りては下る間道夏落葉
梅雨湿り平らかならぬ参道を
潦に映りし夏のちぎれ雲
氏神に祭笛吹く少女かな

梅雨明け

松村光典

春の田や働く前のひと休み
人とバス道譲り合ふ伊豆の春
とりどりの緑もくもく山笑ふ
道場を過るものとし春嵐
木苺のジャムありますの札下がる
夏来るからびしみみず見るたびに
なめくぢり降りみ降らずみ日の暮るる
雑草ののびのびと伸び梅雨の庭
梅雨湿り通風病みの酒少々
梅雨明けの空ひろびろとひろびろと

猿 ぼ ぼ

有賀 昌子

陽炎へる畦の空き缶小さく蹴る
猿 ぼ ぼ を 吊 る す 朝 市 花 曇
水にひたる幹は花屑乗せてをり
ペンダントをチョーカーに替へうららし
歌舞伎座の行く春惜しむ甘栗屋
観 音 の お は す 道 の 辺 山 桜
犬 小 屋 を 取 り 囲 む か に 垣 通
滝 つ 瀬 に 乱 れ ゆ き け り 花 筏
キクザキイチゲ雪の別れに咲きにけり
ふきのたう鬼無里の路にふたつみつ

◇ 9～10月の句会案内

| 月 | 日 | 時 | 句会名 | 会場 | 連絡先 |
|-----|--------|---------|----------|----------|-----------|
| 9月 | 3日(金) | AM10:00 | NHK大崎教室 | さいたまアリーナ | NHK文化センター |
| | 3日(金) | PM6:00 | なごみ会 | 浦和コミセン | 丑久保 勲 |
| | 7日(火) | AM9:00 | こなから会 | 戸田市中央公民館 | 大崎紀夫・WEP |
| | 7日(火) | PM6:00 | うらら会 | 浦和コミセン | 瀬島 孟 |
| | 8日(水) | PM7:00 | ぎんなん会 | 浦和コミセン | 丑久保 勲 |
| | 18日(土) | PM2:00 | セニョリータ句会 | WEP俳句教室 | 藤井美晴 |
| | 22日(水) | PM6:00 | 三斗会 | WEP俳句教室 | 丑久保勲・WEP |
| | 25日(土) | AM10:00 | 楽天会 | 戸田市中央公民館 | 廣瀬雅男 |
| | 26日(日) | PM2:00 | やぶれ傘句会 | WEP俳句教室 | WEP編集室 |
| 10月 | 1日(金) | AM10:00 | NHK大崎教室 | さいたまアリーナ | NHK文化センター |
| | 1日(金) | PM6:00 | なごみ会 | 浦和コミセン | 丑久保 勲 |
| | 4日(月) | PM7:00 | ぎんなん会 | 浦和コミセン | 丑久保 勲 |
| | 5日(火) | AM9:00 | こなから会 | 戸田市中央公民館 | 大崎紀夫・WEP |
| | 5日(火) | PM6:00 | うらら会 | 浦和コミセン | 瀬島 孟 |
| | 16日(土) | PM2:00 | セニョリータ句会 | WEP俳句教室 | 藤井美晴 |
| | 17日(日) | AM10:00 | 吟行会(下記注) | 新座市・平林寺 | 丑久保 勲 |
| | 23日(土) | AM10:00 | 楽天会 | 戸田市中央公民館 | 廣瀬雅男 |
| | 24日(日) | PM2:00 | やぶれ傘句会 | WEP俳句教室 | WEP編集室 |
| | 27日(水) | PM6:00 | 三斗会 | WEP俳句教室 | 丑久保勲・WEP |

(注) 10月17日(日)の吟行。集合は10時。JR武蔵野線新座駅改札口。

吟行地：平林寺。新座駅からバスまたはタクシー。句会場：さいたま市民会館
706集会室。浦和駅西口から徒歩5分。パインズ・ホテルの裏。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ